

田舎町と超高層

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授 伊藤 毅^{いとう たけし}

コロラドの自然

アメリカというと、ついニューヨークやロサンゼルス、シカゴ、サンフランシスコなどの超高層ビルが林立する大都市をイメージしまいがちだが、中西部などの自然豊かな場所にたまたま立ち寄ると、ここが本当にアメリカなのかと疑いたくなるほど素朴でのんびりした生活が展開している。アメリカはやはり広いとあらためて思うのは、こうした田舎町を訪れた時だ。

コロラド州はロッキー山脈を擁することで知られる(写真-1)。1970年代に大ヒットしたジョン・デンバー(John Denver)の「カントリー・ロード(Take me home, country roads)」は、コロラドの隣のウェスト・バージニアの豊かな自然に育まれた大地と生まれ故郷への回帰を歌ったものだ。高度経済成長や学生運動など熱に浮かされたような60年代が終わり、社会の雰囲気も少し落ち着き始めた日本の時代背景ともマッチして、テレビやラジオなどでこのカントリー・ソングがしょっちゅう流れていたことを思い出す。

後日談として、ジョン・デンバーは実はウェスト・バージニアには一度も行ったことがなくこの歌詞を書いたらしく、彼のイメージのなかには故郷のコロラドがあっ

た。ジョン・デンバーはこの歌以外にも「ロッキー・マウンテン・ハイ」など、数々のヒット曲を出したが、1997年不慮の飛行機事故に遭い57歳の若さでこの世を去った。ロッキー・マウンテン・ハイは現在コロラド州の州歌になっている。

ジョン・デンバーが芸名として使ったデンバーは、コロラド州第一の都市であり、州都でもある。空港からデンバーまでをタクシーを使わず、公共のバスに乗ってみる。バスはそれぞれの村の集会所やマーケットなどでいちいち停車するので、とても時間がかかるが、周辺に広がる広大な農村地帯とそこで営まれている静かな生活をかきまみることができる。

ゴールド・ラッシュの町

コロラド州の州都デンバーは、アメリカの多くの都市と同様19世紀にできた歴史の浅い町である。デンバーはいまだこそ人口57万人(中心市街地人口、2006年)を抱える大都市に成長しているが、その出発点においてはゴールド・ラッシュの入植による素朴な鉱山集落に過ぎなかった。

デンバーへの最初の入植者は金鉱目当てにローレンスやカンサスからやってきた人々で、彼らは1858年夏

ロッキー山脈の南に流れるプラット川沿いの河岸段丘上に居を定め、モンタナ・シティと名付けた。ここがデンバー発祥の地であり、現在のグランド・フロンティア公園はこれを記念したものである。しかしこの周辺にはめばしい鉱脈がなく、鉱山町としては継続しなかった。

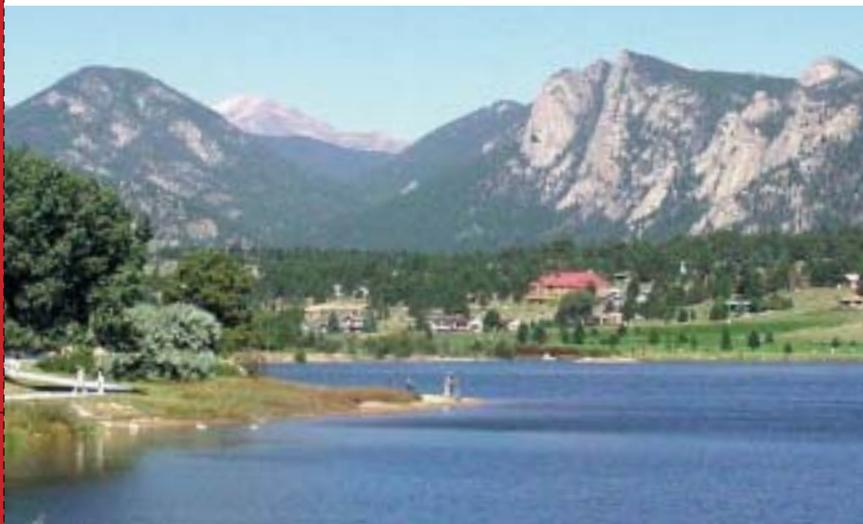


写真-1 ロッキー山脈



写真-2 デンバー遠景
(観光局パンフレットより)

写真-3 16番街



この年の秋、將軍を退役し土地投機業を行っていたウィリアム・ラリマー(William Larimer)という人物がこの地を訪れ、周囲を見渡せる絶好の立地であることを発見する。ラリマーはここに都市建設することを決意し、自分の名前をとってデンバーと名付けた。ラリマーの見立て通り、デンバーは周辺のアラバホやコロラドの中心都市として順調に成長した。1861年アラバホは正式に州として認められデンバーはその州都となる。1876年にはそれまで準州であったコロラドも州に格上げされ、それ以降デンバーはコロラド州の州都として発展を遂げ、現在にいたっている。

田舎町デンバーと超高層ビル

デンバーを訪れると、このあたり一帯の中心都市であるだけあって、超高層ビルが林立している。観光局の作っているパンフレットにはロッキー山脈などの自然と並んで、デンバーのメトロポリスとしての特徴を全面に打ち出している(写真-2)。しかし町にはどこも田舎の雰囲気漂う。町を行き交う人々の数がニュ

ーヨークやロサンゼルスに比べて圧倒的に少ないし、垢抜けない。町の人々は陽気で人なつこく、時間はゆっくり流れている。

写真-3はデンバーのメイン・ストリートの16番街である。週日であるにもかかわらず車の数も少ないし、人通りも閑散としている。中央に見えるタワーはD&Fタワー(Daniels & Fisher Tower)で、1910年に建設されたD&F百貨店の一部が保存されたものである。一目みてわかるように、ヴェネツィアのサン・マルコ広場にたつカンパニエレ(鐘楼)をモデルとしたもので、建設当初はミシシッピ西部一帯でもっとも背の高い建物であった。D&Fタワーはデンバーの誇る、記念すべき超高層ビル第1号なのである。

デンバーの建築ガイドブックの冒頭には次のように書かれている。「デンバーはロッキー山脈地域全体のなかでもっとも大きな町で、1870年代以降商業・文化の中心として栄えた。その結果、デンバーのダウンタウンにはそれぞれの時代の特徴を示す巨大で豪華な建築がたてられた(Michael Paglia et.al “Denver: The Modern City”)。



写真-4(上)バートルズ・ビル
写真-4(下)バーガー・ブラザーズ化粧品店



に建てられたもので、アール・デコの意匠をもつ。現在は改装されロフトとして利用されている。

写真-6は表現主義とされているデーリー・インシュランス・ビル(Daly Insurance Building) 1959年のものである。この建築は現在いうところのダブル・スキンに近く、外皮を白い円盤状の日除けが覆い、その内側に実際の壁面がある。円盤が規則正しく並び外観は一種異様な雰囲気醸し出している。

写真-7はアメリカ建築界の巨匠、フィリップ・ジョンソン(Philip Johnson)設計の超高層オフィス、ノース・ウエスト・タワー。1984年に完成し、デンバーのアイコンとして親しまれている。この他ダウンタウンの中核業務地区

このガイドブックの特徴は、様式別に建築を紹介していることである。古い順に、シカゴ式、サリバン風、プレーリー、アール・デコ、モダン、インターナショナル、ミース風、表現主義、フォルマリスト、ブレットリズム、レイトモダン、ポストモダン、ネオモダンといった具合に20世紀のアメリカ様式を分類して、各時代の代表的な建築を紹介している。他の都市のガイドブックにも共通する点だが、アメリカはやたら様式にこだわる。歴史の浅さは様式によって克服されるかのごとくに。

いくつか実例をみよう。写真-4は1906年竣工のバートルズ・ビル(Barteldes Building)。ガイドブックではシカゴ式として分類されたものである。ルスティカ(粗石)仕上げの1階部分の上には重厚な煉瓦の壁体が立ち上がる。2階中央の開口部が特徴的である。

写真-5はチャンパ通りにあるバーガー・ブラザーズ化粧品店(Buerger Brothers Beauty Supply)。1926年



写真-7 ノース・ウエスト・タワー

写真-6 デーリー・インシュランス・ビル



外装材にチタンを用いたメタリックな外観は、空中に突き出した鋭角なウイングとともに、まるでスペース・シャトルが地上に降り立ったかのようなのである(写真-8)。1960年代に発表されたハンス・ホラインの「航空母艦都市」が想起される。リベスキンドは巍巍たるロッキー山脈のシルエットや岩石の結晶をイメージしたと述べているが、いかにもデンバーの町から浮いたようにみえる。実際この建築の計画段階からさまざまな議論があり、否定的な意見も少なくなかった。し

には、I・M・ペイ、SOM、KPFなど、アメリカを代表する建築家や建築事務所が設計した超高層ビルがある。

これらを見れば、確かにガイドブックが自負するように、一流の建築家によるモダンな各時代の建築がデンバーには集積しているといってよい。しかし、それらは町とじっくり馴染んでいるわけではなくて、まるで1本1本のビルが何の脈絡もなく外部から移植されたようにみえるのだ。

異形の建築

そうしたなかで、2006年10月、デンバー美術館の増築部分であるフレデリック・C・ハミルトン・ビル(Frederic C. Hamilton Building)が完成し、その異形の姿をあらわした。設計はニューヨークの9.11同時多発テロで崩壊したワールド・トレード・センターの再建プロジェクトのコンペを制したダニエル・リベスキンド(Daniel Libeskind)である。

かし各部門の1位を選ぶ「ベスト・オブ・ウェストワード」の2007年新築建築部門では、賛否両論あることを承知のうえで、デンバーの将来の文化の高揚を予感するものとして、この建物が堂々1位に選ばれている。



写真-8 フレデリック・C・ハミルトン・ビル



ム・ページ上にこれらのリストや地図を公開し、市民が自分の住所を入力すると歴史地区に属しているのかが直ちにわかるようなサービスを提供している。また不動産

業者もこうした歴史地区に立地する物件に価値を見だし、その歴史性を物件のセールスポイントとして積極的に利用している。

この建物のすぐ近くにはポストモダンで一世を風靡したマイケル・グレイヴス(Michael Graves)が設計したデンバー公共図書館があるが(1995年竣工)、この建物もハミルトン・ビルに負けず劣らず唐突な建物である(写真-9)。考えてみると、デンバーは地方都市であるにもかかわらず、アメリカ中部のメトロポリスとしてのプライドには並々ならぬものがあって、時代の最先端の建築を欲し続けたのである。田舎町デンバーと超高層ビルのアンバランスな印象はこうしたところに淵源がありそうだ。

歴史への敬意

とはいえ、デンバーは最先端の現代建築ばかりを受け入れている都市ではない。ニューヨークのペンシルベニア駅の取り壊しをきっかけとして歴史的建造物を保護するために制定されたランドマーク法が1965年施行されると、デンバーはただちに町のなかのランドマーク保存に乗り出した。先にみたD&Fタワーはその1例であって、他にも数多くのランドマークが手厚く保護されている。

点としてのランドマークだけでなく、面としての歴史地区(Historic District)の保存にも力を入れており、ダウンタウンはもとより市域全体にわたって歴史地区指定が着々と進んでいる(図-1)。デンバーは市のホー



図1 歴史地区の分布

デンバーに限らず、アメリカのどの都市を訪れても、歴史的な建築や地区に対する保存はきわめて能動的に行われている。一方で中枢業務地区には次々と新しい衣をまとった超高層ビルがたっていく。この一見相対立するような動きが矛盾なく共存するところに、歴史の浅さゆえのアメリカ諸都市の特徴が存しているといつてよい。デンバーの田舎町としての性格と超高層ビルとをアンバランスとして評価するのはどうやら間違っているようで、むしろ歴史と現在の両方ががんばっている、というところに彼らの都市アイデンティティが宿っているのだろう。